

# 断熱保温カバーの受注好調

## 日本グラスファイバー工業

### 前年比3倍見込む

### 取り付け容易、節電に効果

工業用ガラスウール製造の日本グラスファイバー工業(本社江南市五明町石橋18、奥田晏弘社長、電話0587・55・3176)が取り扱うガラス系素材の断熱保温カバーが、節電意識の高まりとともに引き合いを大幅に伸ばしている。設備への取り付けが容易で節電効果が高いためボイラーや射出成形機などの断熱材として最適なほか、中国国内の工場2拠点で生産しコストを圧縮。環境配慮型設備として、日本のほか中国企業向けにも積極的にアピールしていく。



断熱保温カバー省エネジャケット

### 中国でも積極展開

同社は1952年創設の「省エネジャケット」(商品名)と射出成形機など加工機向け「ニチグラ・シヤール」を素材とする耐火ジャケットの取り扱いを契機に、断熱保温カバーに参入した。数年前に、一宮市に自社の縫製工場を開設し素材から仕上げ加工まで一貫して手がけるようになった。

同社が取り扱っているボイラーなど蒸気配管

向けの「省エネジャケット」(商品名)と射出成形機など加工機向けの「ニチグラ・シヤール」を素材とする耐火ジャケットの取り扱いを契機に、断熱保温カバーに参入した。数年前に、一宮市に自社の縫製工場を開設し素材から仕上げ加工まで一貫して手がけるようになった。

同社は1952年創設の「省エネジャケット」(商品名)と射出成形機など加工機向けの「ニチグラ・シヤール」を素材とする耐火ジャケットの取り扱いを契機に、断熱保温カバーに参入した。数年前に、一宮市に自社の縫製工場を開設し素材から仕上げ加工まで一貫して手がけるようになった。

同社は1952年創設の「省エネジャケット」(商品名)と射出成形機など加工機向けの「ニチグラ・シヤール」を素材とする耐火ジャケットの取り扱いを契機に、断熱保温カバーに参入した。数年前に、一宮市に自社の縫製工場を開設し素材から仕上げ加工まで一貫して手がけるようになった。

同社は1952年創設の「省エネジャケット」(商品名)と射出成形機など加工機向けの「ニチグラ・シヤール」を素材とする耐火ジャケットの取り扱いを契機に、断熱保温カバーに参入した。数年前に、一宮市に自社の縫製工場を開設し素材から仕上げ加工まで一貫して手がけるようになった。

ケット」(同)。省エネジャケットはガラスウールをシリコンコーティングしたガラスクロスで包んでいる。また、ニチグラ・シヤールは素材にシリカを多用することで、900度までの高温での耐熱仕様となっている。

いずれも設備からの大量の熱放散を防止すること、電気などの省エネにつながる。同社によると平均して年間3割以上の節電効果があるという。

また既存の断熱材と違い、マジックテープによるワンタッチに近い取り付けが可能で、メンテナンス時にも専門の施工が不要となる。同社では「震災後の節電対策で、食品工場や病院などから意識が高まっている」とし、昨年の3倍以上の成約を見込んでいる。

同社は生産コスト圧縮へ、中国の大連市と佛山市の工場でも同製品を製造している。中国は加工メーカーが急増しているものの、電力事情が悪いため節電意識が高まっている。こうした現状を背景に、現地での一層の引き合い増加を見込む。同製品に関する問い合わせは同社一宮東工場(電話0586・53・6211)まで。